

平成 19・20 年度 JSL カリキュラム実践支援事業実施報告書【授業実践】

実施団体名【 東浦町教育委員会 】

1 学習活動の実際

(1) 学習指導要領での指導学年と領域 第 5 学年 (話す・聞く・書く)	
(2) 単元名または活動名 言葉っておもしろいな「どんなとき、だれに」	
(3) 対象児童の実態 (4 人)	
A 児	第 5 学年 国籍 (ブラジル) 母語 (ポルトガル語) 在籍年数 (5 年) ・平仮名・片仮名の読み書きはでき、第 3 学年の漢字までは読むことができる。日常会話には困らないが、語彙が少ないためにうまく伝えたいことを表現できず、「あのときのあれ」というような指示語を多用する。比較的ていねいな日本語を使うことができる。
	第 5 学年 国籍 (ブラジル) 母語 (ポルトガル語) 在籍年数 (5 年) ・平仮名の読み書きはできるが、片仮名は一部定着していない。第 2 学年の漢字まで読むことができる。最近は日本語での会話に困らなくなってきたが、自分の言いたいことがうまく表現できずにイライラしてしまうこともある。
C 児	第 5 学年 国籍 (ブラジル) 母語 (ポルトガル語) 在籍年数 (1 年) ・平仮名・片仮名の読み書きと第 1 学年の漢字の読みはできるが、第 2 学年以上の漢字の読みはまだできない。サバイバル日本語は身に付いたが、指示したことが通じないことが多い。身振り手振りで自分の言いたいことを伝えようとする人が多い。
	第 5 学年 国籍 (ブラジル) 母語 (ポルトガル語) 在籍年数 (1 ヶ月) ・平仮名・片仮名の読み書きはでき、第 2 学年の漢字まで概ね読むことができる。日常会話はできるが、語彙が少ないため言葉を言い換えないと内容が理解できないことがある。
(4) 目標	
◇【教科指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・目的や場に応じて言葉づかいがどのように変わるか考えながら話そうとする。 ・場面によって選ぶべき言葉が変わることを確かめて書くことができる。 ・相手を決めて目的に応じた手紙を書くことができる。 	
◆【日本語指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ていねいな言い方は、相手によい感じを与えることに気づく。 ・ていねいな言い方を考えることができる。 	

2 学習活動

指導者（日本語適応教室担当者）、指導補助者（日本語適応教室補助員）			
全体の時間数（10 時間）			
学習活動の状況、指導内容	活動方法	指導上の留意点	有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について
①身近な言葉を振り返り、言葉の使い分けに関心を持つ。	取り出し	・相手や目的、場によって言葉や表現の違いがあることに気付かる。 ・適切に使い分けていたかを考えさせる。	◇日本語の特色であり、日本人と円滑なコミュニケーションを図るために大切であることを話して関心を高めた。 ◇カードの色ぬりや、そうじ道具の片付け方で、ていねいなものとそうでない物の写真を比べさせ、ていねいという言葉の意味とそのよさに気づかせる。
②方言と共通語の使い分けに気づく。	取り出し	・どんなとき方言で話し、どんなとき共通語を使うのか考えさせる。	◇本時のねらいを声に出して読ませる。 ◆校長先生に 2 種類の言い方をする子どものビデオを見せて、言い方を比べさせる。 ◆ていねいな言い方は人にどんな感じを与えるか、考えさせる。
③相手や場に応じて、改まった表現の方がふさわしいことに気づく。	取り出し	・状況にふさわしい言い方にする必要性に気づかせる。	◆ていねいな言い方と普通の言い方の文を分けて、そのカードを掲示していく。 ◆ていねいな言い方には、「です・ます」がついていることに気づかせる。
④言葉や表現が気持ちやものの考え方も伝えていることを確かめる。	取り出し	・言葉は、話し手の気持ちやものの考え方もも伝えていることを確かめさせる。	◇普通の言い方の文をていねいな言い方に直して一人ずつ先生に聞いてもらい、正しいか判断してもらう。
⑤言葉使いから人物像や人物相互の関係を読み取る。	取り出し	・言葉の違いから、話し手の人物像や人物相互の関係がわかることに気づかせる。	◇どんな人にていねいな言い方をすべきなのかを考えさせる。 ◇同じ内容でも言葉の使い方によって受け取る印象や語感の違いがあることに気づかせる。
⑥相手や場によふさわしい文章に書き直す。	取り出し	・相手や目的、場を確認し、文を書き直させる。	
⑦あまりなじみのない人へ	取り出し	・ふさわしい言葉や表現を考えさせる。	

<p>の手紙を書く。</p> <p>⑧相手に応じた話し方をしていることを確かめる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人物や場面を想定して演じさせる。 	<p>◇語彙の不足を補うために使うとよい単語を提示する。</p> <p>◆発表者に対して、評価を述べたり改善すべき点を述べたりする。</p>
<p>⑨先生からの伝言を二つの方法で表現し、場に応じた使い方を考える。</p>	<p>取り出し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書き言葉と話し言葉による表現の違いに気づかせる。 ・大切な部分を繰り返させる。 	<p>◇実際に黒板に書かせて比べる。</p>
<p>⑩相手や場に応じた言葉や表現について話し合う。</p>	<p>取り出し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて気付いたこと ・大切だと思ったこと ・疑問に思ったこと ・難しいと思ったこと ・これから気を付けたいこと 	<p>◆どの観点についての意見なのかをはじめに明言させてから考えを発表させる。</p> <p>◇日本社会で大切にされている文化であることを理解させる。</p>

3 成果

<p>①対象児童に対する成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な教材を使うことでいい言い方のよさに気づくことができ、いい言い方をしようという姿勢が見られるようになった。 ・2つの言い方を比較することで文尾の特長に容易に気づくことができ、本時以降しゃべる時に「です・ます」を使うようになってきた。 ・先生方や目上の人に対し友達とは違ういい言葉を使おうという姿が見られ、また接する態度も少し変わったように感じる。 <p>②その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動で意見を言う機会が多くあり楽しく学習できたため、学習課題に前向きに取り組もうとする態度が見られるようになった。

4 課題

<ul style="list-style-type: none"> ○「ます」をつけることにより動詞の語尾が変わることにうまく対応できない児童がいた。文法面での説明をどのように加えていくとよいのか、考えていきたい。 ○改まった場合に使うとよい言葉を知らないので、日頃から意識して紹介することが必要。 ○たどたどしい日本語を売りにしている外国人芸人の日本語が、よいものであると勘違いしている面がある。
